

新刊紹介

福井博士
頌壽記念 東洋思想論集

昨今、東洋學關係圖書の上梓が盛んに行われ、この方面に志す者にとつては、まさに應接に暇無きかの感が有る。而して昨年十一月、去る昭和三十三年に華甲に達せられた福井康順博士の還曆を記念して世に出された「東洋思想論集」は、數多い東洋學關係圖書の中に在つて、一きわ光彩を放っているものである。福井博士は日本東洋學界の巨星として現に日本學術會議會員、日本中國學會、日本印度學佛教學會、日本宗教學會各理事、日本道教學會會長等々の地位に在つて極めて多忙なるにもかかわらず、日夜孜々として専門領域の研鑽に努められ、更に早稲田大學その他に教鞭を取つて後進の育成指導に盡力せられるなど、東洋學發展の爲になみなみならぬ努力を拂つて居られる。博士のかかる活躍ぶりにふさわしく、東洋學の各分野に於ける碩學新進から華甲の記念論集に寄せられた論文は實

に五十有七篇、A五判にして堂々八六〇頁の大冊となつて、その還曆を祝福することとなつたのである。

八六〇頁、收載論文五十七篇という見掛けもさり乍ら、中に盛られた論文の多彩なることはまことにすばらしいものである。取り上げられた問題の分布を平面的に見るならば、中國を中心としてインド・中央アジアから日本を含むのみならず、更に遠く東南アジアの地に迄達しているし、時間的に見るならば古代・中世・近世の總べてに亙つている。又、それらは特定の問題を中心に特定のグループによつてものされたのではなく、東洋學の諸部門に於いて活躍して居られる人々が、それぞれ専門の立場から獨自の研究成果を寄せられたものであるから、内容の上からは、思想論集である以上、佛教や道教を含む宗教・哲學・倫理を含むのは當然のこととして、その枠は更に廣められて歴史・書誌等の部門に迄も及んでいる。而してそこには新資料の紹介有り、新分野の開拓有り、はた又、已に研究の進められて來た部面に於けるより深い探究や基礎的面からの再検討が行われ

ているなど、東洋思想を中核としてそれ以外の面をも含んだ諸研究の一大淵藪たるの觀を呈しているのである。東洋學、殊に東洋思想について何等かの問題を抱きながら本書をひもとく時、蓋し、少なからぬ收穫を得ることであろう。斯學に志す者にとつて、まことに有り難い書物と言わねばならない。

五十七篇に上る珠玉にも比すべき勞作の個々について紹介し論評を加えることは、ここでは爲し得るところではない。ただ、以下に收載論文のテーマと執筆者名とを列記し、以て、具體例による本書鳥瞰のよすがとする程度に止めておくものである。

敦煌發見神人所說三元威儀觀行經斷簡

校勘

秋月 觀映

告祭序説—古代支那に於ける祈禱儀禮—

池田 末利

「太公家教」校釋

入矢 義高

漢碑漢鏡に現われた道教の資料について

て

内野熊一郎

古佚書道閣の觀經疏の復原について

惠谷 隆戒

老子における一つの問題——道法自然

の解釋—

大瀨 皓

敦煌殘卷三則

大淵 忍爾

魏晉時代の般若思想—僧肇の「不真空論」に見える三家異説を中心として—

横超 慧日

吐魯番出土の道教關係資料數種

小笠原宣秀

月稱による龍樹の時間論—madhyma-

kavyāta kalaparīkṣā nāmāḥkāra-vinśaitamāṇa prakaraṇam の和譯—

金倉 圓照

「文心雕龍」の美

金谷 治

管子の輕重篇について

木村 英一

老子守庚申求長生經について

窪 徳忠

シナ思想に見える遊戲的傾向

栗田 直躬

「惟漢三年大并天下」瓦當についての

栗原 明信

造形に見られる龜と文字との關係

小杉 一雄

明の太祖の三教思想とその影響

酒井 忠雄

曇鸞・善鸞二師の教風—比較宗教哲學

佐藤 賢順

俱舍論賢聖品の三十二行相について—

釋友の俱舍釋に依りて— 佐藤 密雄

唐三藏の出生説話について

澤田 瑞穂

天台の即身成佛義

清水谷恭順

焦氏易林の作者について

鈴木由次郎

禪宗の發生

關口 眞大

差役考

曾我部靜雄

中國法における疑罪の觀念

瀧川政次郎

ポリネシアン・タブーの特質

竹中 信常

トリ・ヴァリーについて

田中於菟彌

水經注の壽春・導公寺について—劉裕

(宋武帝)と長安・鳩摩羅什系の佛

教—

塚本 善隆

鳩摩羅什譯出と言われる禪經典の説示

する念佛觀 藤堂 恭俊

ジュニャーナ・ガルバの佛教學—その

中觀瑜伽行説— 長澤 實導

央掘摩羅經に就いて

中村 瑞隆

所謂老子の形而上學的考察

仁戸田六三郎

嵇康の釋私論の一つの解釋

西 順藏

曇鸞傳の一齣について—道宣の記載に

關する私見— 野上 俊靜

邪馬・壹々臺のよみかた—やま・い

やま・との轉化—

橋川 時雄

諸錄俗語解について—中國小説戲曲の

用語研究ノート(七)— 波多野太郎

大乘戒と菩薩戒經

平川 彰

白樂天の詩文と吳郡志

平岡 武夫

楚辭に於ける「嘆老」の系譜

藤野 岩友

大智度論に見える法華經の理解

布施 浩岳

道元における持戒持律思想の展開

古田 紹欽

道教像の研究資料について

逸見 梅榮

大唐蘇常侍寫眞定本—唐代一官官の佛

教信仰— 牧田 諦亮

孔子と尙書

松本 雅明

中國佛教の經濟思想

道端 良秀

宗教史から見た中國古代末期

宮川 尙志

抱朴子外篇について—その内篇との關

係— 村上 嘉實

唐西明寺道宣律師考

山崎 宏

隋・西京禪定道場釋曇遷の研究—中國

佛教形成の一課題として— 結城 令聞

赤松子中戒經と功過思想 吉岡 義豐

居士としての錢牧齋—錢牧齋と佛教—

吉川幸次郎

玄奘譯「因明入正理論」について

渡邊 照宏

宗教的內面性の傳達と教義解釋の觀點

—佛教における教相判釋によせて—

石津 照璽

「無心について」—佛教思想からみる

インド的と中國的一 上田 義文

李賀雜考 奥野信太郎

Philosophy of Full Function

増永 靈鳳

Studies on Nirvāṇa—with special

reference to the Problems: "Nichts

or Peace" and "Absolute Nirvāṇa

and the Limit of Inquiry"—

宮本 正尊

(A5版・八百六十頁・福井博士頌壽記

念論文集刊行會發行・二二〇〇圖)

(滋野井)

中野教授古稀記念論文集

高野山大學の中野義照博士は、日本インド學佛教學界の耆宿であられること

は、今更あらためていうを要しないが、

博士の古稀を祝して編纂された記念論文

集は、二十有餘人の學者による得がたい

論文を收録している。

中野博士はつとにインド文化史の方面

に關心をむけられ、なかに、カウティ

ルヤ實利論、ヤーヂュニヤザルキヤ法

典、マヌ法典等には秀れた業績を示さ

れ、またその文化史觀によつて佛教史に

おいても特異の探求をなされているとい

うことである。博士の學風は、インド文

化史一般にもまことにゆたかなものがある

が、この記念論文集は、博士のその學

風を反映して、佛教學インド學、また密

教にと、多彩な論文集となつた。以下そ

の題を示すならば

十事非法に對する諸部派解釋の異同

—特に諸律における十事各項の理

解の比較—.....金倉 圓照

施設(Paṇāṭi)について.....水野 弘元

シャンカラの小乗佛教批判

.....中村 元

空觀の發展.....田中 順照

ラトナキールチの遍充論.....梶山 雄一

大日經の本文檢討二三.....月輪 賢隆

「四度」眞言の音譯字の性格

.....堀内 寛仁

ビルマの誦律會.....上田 天瑞

チャールナクヤ・シャタカ.....辻 直四郎

インド古曆と佛教天文曆.....善波 周

西域の佛教遺跡.....山本 智教

ヨーガ學派と佛教交渉の一斷面——認

識論を中心として.....高木 伸元

中元孟蘭盆と敦煌本中元玉京玄都大

獻經.....吉岡 義豐

チベット藏經に傳える破神論の梵文

資料.....宮坂 有勝

草木成佛の日本的展開.....坂本 幸男

弘法大師の緣起觀.....中川 善敬

五大院安然和尚について.....大山 公淳

貞慶の信仰.....久保田 收

バラブドゥール廻廓彫刻と華嚴經入

法界品(英文).....干潟 龍祥

百萬遍知恩寺貝葉梵文の研究(獨文)

.....白石 眞道

雲の使者における愛の美(英文)

——萬葉集との比較——.....木村 秀雄

Saundarananda に現れた Śābdala-

ṇkāra.....松濤 誠廉

Sumāgadhāvadāna と Divyāvadāna